核のゴミ　３人展

原発の使用済み燃料の行き場がありません。西川知事は使用済み核燃料を県外に出すことを大飯再稼働の条件としています。関電は２０１８年中に中間貯蔵の県外候補地を発表すると約束しました。しかしそれは実現不可能とみてよいでしょう。むしろ関電は県外ではなく高浜などの立地点での乾式貯蔵を目論んでいるしている疑いがもたれます。

伊藤孝司

関電が投資しているオーストラリアの鉱山も先住民の居留地にあります。豊かな自然の中で平和に暮らしていた先住民が鉱山労働者として従事し被曝しました。鉱滓置き場の近くの住民の間でもガンや障害が多発しています。

森住卓氏

インドの先住民が住む地域にウラン鉱山がありウランを採掘・製錬する公社の近隣の住民の間にガン、白血病、流産･死産、奇形、先天異常、皮膚疾患など深刻な病気が広がっています。

小林晃氏

写真はセラフィールド再処理工場

日本の使用済み燃料を再処理している仏国と英国の工場と周辺住の写真を展示しています。工場周辺では、子どもの白血病などの疾病率が高いと報告され、それを両国政府とも認めています。
英・仏の再処理工場による海洋汚染は北海まで広がり、隣国のノルウェー政府は英国に操業中止を何度も勧告しています

	展　示　期　間	開　催　場　所
２０１７年	１１月２３日～３０日	越前市図書館
	１２月１４日～１８日	アオッサ５階
２０１８年	１月２０日～２２日	鯖江図書館２階

「核のゴミ」写真展実行委員会　連絡先０９０－６２７１－８７７１　山崎隆敏